

〔枕草子〕湯は

な、くりのゆ 有馬のゆ 玉つくりの湯

〔八雲御抄〕温泉

あしかりのゆ 相模歌 ありまのいでゆ 攝千玄なの、みゆ 伊 な、

くり同所也 いよのゆ 伊 有御幸所也 なすの 拾遺短歌 なとりのみゆ 陸有 大和物語 つか

まの 信 後拾遺 いぬかひのみゆ 拾 信乃歟、

〔藻鹽草〕温泉 同名所

鹽温 いづる温 御温 いで温 つくしのゆ 九州の詞に侍り、伊豫温 志らよのゆのぬげたはいくつ 數

るらんゆげたは多 有馬温 攝津、行基開給、三輪神まします、出湯なるべし、走温 にいづる國山の南

事にいへり源氏、那須温 下野那須郡の神あり、なぞかゆへをも、大飼御温 志ながらちていぬかひ

るしなりけり、那須温 下野那須郡の神あり、なぞかゆへをも、大飼御温 志ながらちていぬかひ

もりの見ゆるはす 筑摩温 同上、又筑摩七久里温 同、つ七くりに戀いでゆなるらんすか 蘆荊温 蘆相模

のともたの河内に出るゆの 世ましらこの浦の走温 或いぜ、かつまたのみ温 美作まくまの、温の

國 御熊野温 同上、みくまの、ゆこさはこの御ゆ 陸奥のさはこのみゆとなげかじ君をみちの名取御

温 同上、おぼつかな雲のかよひぢ見てし

〔日本歌謠類聚〕温泉揃

夫れ國々に出湯多しと申せども、まづ四國には伊豫の湯の、湯桁の數は左八つ、右は九つ中は

十六ありとかや、扱五畿内に至つては、又とならびも夏野ゆく、男鹿の角の津の國に、きどく有

馬の一二の湯、よし足引の大和には、入れば病もはや愈えて、家路に急ぐ十津川や、人の心はあ

さもよひ、紀の關守がたづがゆみ、いるさの月の影清く、湧く泉をや熊野の湯、因幡に外山、美作

に湯原、但馬にきのざきや、伊豆には伊東熱海の湯、相模に湯本塔の澤、木賀宮の下堂が島、そこ